

ウイルス不活化試験

1 依頼者

株式会社 ドゥリーム・ドウ

2 検 体

スーパードリーム AF-2

3 試験概要

検体にインフルエンザウイルスのウイルス液を添加，混合し(以下「作用液」という。)，所定時間後に作用液中のウイルス感染価を測定した。また，あらかじめ予備試験を行い，ウイルス感染価の測定方法について検討した。

4 試験結果

1) 予備試験(中和条件の確認)

細胞維持培地で作用液を希釈することにより，検体の影響を受けずにウイルス感染価が測定できることを確認した。

2) ウイルス感染価の測定

結果を表-1に示した。また，使用細胞及び培地を表-2，試験条件を表-3に示した。

表-1 作用液のウイルス感染価測定結果

試験 ウイルス	対 象	log TCID ₅₀ /mL			
		開始時	30秒後	1分後	10分後
インフルエンザ ウイルス	検 体	—	<2.5	<2.5	<2.5
	対照(精製水)	7.5	—	—	7.0

TCID₅₀: median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量

作用温度: 室温

<2.5: 検出せず